

◆ウアンボ州拡大 M&S の実施◆

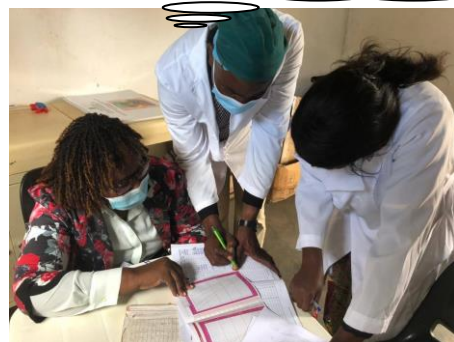
新型コロナウイルスの感染拡大により、日本人専門家は2020年3月以降、アンゴラに渡航することができませんでしたが、2021年2月下旬から日本人専門家の現地での活動を再開することができました。そして4月5日～19日の日程で、ウアンボ州拡大 M&S（通常のモニタリング&スーパービジョンに加えて COVID-19 対策の状況も確認）を実施しました。プロジェクトチームとしての地方出張は、1年ぶり以上となります。事前にウアンボ州の COVID-19 の感染状況や感染時の対応等、入念な情報収集を行いました。また、州間の移動は、新型コロナウイルスの抗原検査を受診し、陰性証明が必要なため、検査の受診・陰性証明の取得をして、ウアンボ州に渡航しました。国家公衆衛生局からは、Dr. Landinha と Dr. Deolinda が参加しました。また、プロジェクトマネージャーである国家公衆衛生局プライマリーヘルスケア部部長 Dr. Ketha も後半一週間、同行することができました。

ウアンボ州拡大 M&S では、新型コロナウイルス感染症対策の確認及び母子保健サービスの実施状況を確認しました。ウアンボ州では母子健康手帳を導入して約1年半が経過しており、産前健診部分の手帳記入に慣れてきた保健スタッフが多くなってきていました。

ウアンボ州内の47施設を訪問



母子健康手帳の記入状況の確認



◆JCC（合同調整委員会）の開催◆

2021年4月20日に第6回 JCC（Joint Coordination Committee：合同調整委員会）を開催しました。JCCとは、プロジェクトの最高意思決定機関で、プロジェクトに関わる保健省職員、開発パートナー、JICA関係者などが集まり、これまでの経過や今後の計画について報告し、承認を得る重要な会議です。今回は、新型コロナウイルスの感染拡大により、一同が一箇所に集まることを避け、メイン会場から Zoom を繋いで、初めてオンラインでの JCC を開催しました。プライマリーヘルスケア部部長の開会挨拶に始まり、JICA アンゴラ事務所長挨拶、国家公衆衛生局の発表、各州の発表及びインパクト評価について発表がされました。最後のディスカッションでは、会場からもオンライン参加者からも、本プロジェクトの意義への賛同を示す意見が示されました。

